

瀬戸中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教材の提示の工夫や学び方の指導を通じた授業を実践する。
- 個に応じた指導を充実徹底し、自ら学ぶ態度を育てる授業を実践する。
- 学力の確実な定着に向けICT環境を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
河野 孝介	校長 近藤 太 教頭 佐藤 浩 教務主任・研修主任 大森由美子 1年主任 佐川佳織 2年主任 友成江美子 3年主任 園井忠泰

校長

近藤 太

【小中連携または中高連携における共通の取組】

幼小中の11年間を通して、系統的・継続的な学習指導を行い、「学びのプラン」「すくすく瀬戸っ子成長の記録」を実践する。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いたある授業態度で各教科で指示された課題に対してまじめに取り組むことができる。 ●学習習慣が身につけていないため、学習意欲が乏しく、各教科の単元テストなどで身につけた知識・技能を応用力が試されるテスト等に関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して基礎基本的な知識・技能を身につけ、継続して取り組むことができる。 ・習得した知識や技能を各教科等において運動させたり、生活の中で活かしたりすることができる。 ・主体的に問題や課題を発見して、その解決に向けて努力することができる。	・目標(めあて)を明示し、授業後に学習内容の振り返りをさせる。 ・自主勉強ノートやワーク等を活用して、振り返り学習をさせることで、家庭学習の定着を促す。 ・単元テスト等の振り返りを行い、どの場面であつまっているかを把握し、あつまっている生徒へはAIDリル等を活用して、個別指導の充実を図る。	・各教科でAIDリルの活用方法を見直し、生徒がより個別最適に使用できるように工夫する。 また、朝学習の時間においてもAIDリルの時間を確保する。	・目標(めあて)の明示を毎時間行うことで、各教科の学習内容が明確になり、道筋を立て学習することができた。 ・各教科で単元テストを実施し、自己の課題や問題を発見することができた。 ・AIDリルを活用し、各教科において以前に間違えた問題等をくり返し行うことができた。	・単元テスト等の課題の解決に向けて、タブレット端末の持ち帰り等も含め、家庭学習の在り方を検討し、個別最適な学びを推進する。 ・各教科でノートの取り方を明示するなど、自己の課題解決に向けて、基礎基本のさらなる定着が図れるように授業内容の工夫・改善を検討する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友だちの意見をしっかりと聞くことができ、その中で自分の考えをまとめることができる生徒が多い。 ○タブレット端末等を用いたグループ活動等の話し合いでは、積極的に取り組むことができる。 ●各教科で学んだことを相手に分かりやすく伝えることや自分の考えを深めたりすることが十分でない生徒が少なくない。	・文章をくり返し読むことで、内容を理解し、わかりやすく表現することができる。 ・常に課題追究の意識をもって学習に取り組むことができる。 ・話し合い活動やグループ活動等を通して自分の考えをより深めたり、修正したりすることを通して、課題を解決する方法を考えることができる。	・朝の瀬戸っ子タイムで読書・視写・おはようメッセージ等の活動を通して、表現力や集中力を養う。 ・ホワイトボードやICT機器を効果的に活用し、自分の考えを表現できる機会を多く取り入れる。 ・各教科の課題に応じて行われる話し合いやグループ活動等を通して他者と協働した授業が実践できるように工夫・改善を図る。		・朝の読書や視写・おはようメッセージを通して、文章を読む・書く・考える機会が増え、内容を理解してまとめる力がついてきた。 ・各教科で他者との協働的な学習の機会を設け、互いに意見交換等を行う中で、自分の考えをまとめることができた。とくに、教科横断的な授業実践においては自らの学びの振り返りを行い、他者へのプレゼンを行うなど表現力の向上にもつながった。	・「表現し伝える力」を身につかせるために、ホワイトボードやICT機器等をより活用することで、自分の考えを深めることができるようにする。 ・各教科で「思考ツール」を取り入れた学習内容の充実を図り、協働的な学びを通して、互いに課題解決に向けて取り組めるように授業内容等の工夫・改善を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた態度で話を聞き、与えられた課題に対して真面目に取り組むなど、基本的な学習態度が定着している。 ●家庭学習の時間が十分に確保できていない生徒が多く見られる。また、課題(宿題)に対してわからない問題をそのままにしているところに課題がある。	・課題(宿題)に対して友だちや教員の意見を受け入れ、その解決に向けて取り組もうとすることができる。 ・自分の学習の状況を振り返り、家庭学習の時間を確保し、主体的に学習に取り組むことができる。	・「夢・心づくりノート(群青)」を用い、夢の実現や目標達成のために行動目標を立てさせ、日常的にPDCAサイクルの確立を図る。 ・自主勉強ノート及び学習テキスト(AIDリル等)を活用し、その日の振り返りができているか点検し、家庭との連携を図りながら家庭学習の時間の確保に努める。また、学習の目的や学び方を伝え、学習意欲の向上につなげる。	・「群青」の見直しを図り、自己の目標達成に向けて具体例を示し、継続的な取り組みができるようにする。	・教師側の様々なチャレンジにより、学びの面白さを実感し、次時の授業内容に興味を示す等、学習意欲を向上させた生徒も現れてきた。 ・群青への記入を通して、自己の行動目標達成に向けて取り組める生徒が増えてきたが、思うように記入できず、行動に移せていない生徒も見受けられた。 ・家庭学習に課題はあるが、放課後や休み時間に互いに教え合ったり、先生に質問をしている生徒の姿が見られた。	・生徒が自己調整したいと思う授業、子供を諦めさせない学習指導の追求が求められる。 ・群青の目的を再確認し、自分に何ができかを考えさせ、自己実現に向けて取り組めることができるようにする。 ・生徒がより学びに向かう力をつける手立てを考え、家庭学習を含めた学びの充実を図る。 ・めあて、比較、対応、振り返り等、前時の学習内容を可視化し、生徒が次への意欲をもつ板書の工夫が必要である。

令和6年度 学力向上ロードマップ

